

フィリピンに中高一貫校

八戸・光星学院 日本語や文化教育

八戸市の学校法人光星学院(法官新一理事長)は22日、フィリピンに中高一貫校「八戸学院カールテール高校」を開設し、現地の教育財団と共同で運営すると発表した。

運営する八戸学院大学の大谷真樹学長が同日、市役所で記者会見した。同学院はフィリピン・タ

ラック州の「カールテール教育財団」と協定を締結し、同財団が運営しているカールテール高校(中高一貫6年制、生徒数約500人)に日本語や

文化の学習を目標とする。日本語や文化の学習を目標とする現地の中学生が対象で、開校は現地の新学期が始まる2018年6月を予定。同学院によると、県内の学校法人が外国に現地の国民を対象とした学校を開設するのは初めてで、国内でも例がないという。



フィリピンへの高校開設など海外展開について会見する大谷学長(左)と法官理事長(右)。同学院はフィリピン・タラック州の「カールテール教育財団」と協定を締結し、同財団が運営しているカールテール高校(中高一貫6年制、生徒数約500人)に日本語や文化の学習を目標とする。日本語や文化の学習を目標とする現地の中学生が対象で、開校は現地の新学期が始まる2018年6月を予定。同学院によると、県内の学校法人が外国に現地の国民を対象とした学校を開設するのは初めてで、国内でも例がないという。

際化の拠点となる「国際教育連携統括局」を、同市とフィリピンの現地に「八戸学院国際教育センター」をそれぞれ設置。現地高校を卒業した生徒の八戸学院大や短期大学部への留学と、同大や短大部学生、八戸学院光星高校の生徒の現地語留学などを支援する。

会見で大谷学長は、アジアを中心に日本語や文化の学習ニーズが高まっていることや、日本国内の介護の担い手不足を解決する外国人労働力の確保には日本語学習の充実が不可欠なことなどを指摘。法官理事長は「介護の需要と供給の間に教育機関が入れば人材育成に貢献できる」と述べた。会見では、同大学短大部に19年4月をめどに福祉科を新設することを検討していることも明らかにした。現地高校の卒業生も国家資格が取得できるような教育を進めるといふ。

同大と八学光星は、同財団が母体のフィリピンの語学学校「CNEI」への学生・生徒の留学制度に、来年度から取り組むことを決めている。(若松清巳)